

フィッチによるブラジルの格下げについて

ポイント① 「投機的格付」のBB+に格下げ

12月16日、格付会社フィッチ・レーティングスは、ブラジルの外貨建て長期債務格付と自国通貨建て長期債務格付をともに「BBB-」から投機的格付の「BB+」へ引き下げました。見通しは「ネガティブ」としました。

大手格付会社による投機的格付への格下げは、S&Pに次いで2社目となります。また、格付会社ムーディーズも12月9日に、投機的格付に引き下げられることを検討していると発表しました。

ポイント② 景気、財政、政治の悪化が背景

フィッチは今回の格下げの理由について、景気後退が当初の想定よりも深刻であること、財政状況が悪化し続けていること、政治の不透明性により債務負担を安定させる財政上の措置を効果的に実行する能力が損なわれていることを指摘しています。

同国の2015年7-9月期の実質GDP（国内総生産）成長率は前期比-1.7%となり、1996年の統計開始以降初めて3四半期連続のマイナス成長となりました。フィッチは景気後退の背景について、政治の不透明性が高まる中、高失業率や信用の悪化、高インフレなどが内需の重しとなっていると指摘しており、2015年に続き、2016年もマイナス成長が続くと予想しています。

また、フィッチは格下げ後も見通しを「ネガティブ」としており、経済、財政、政治の不確実性と悪化リスクは続くと説明しています。

ポイント③ 格下げ発表を受けてレアルは下落

今回の格下げにより大手格付会社2社が投機的格付を付与したこととなり、機関投資家などによるブラジル資産の売却が加速する懸念があります。また、ブラジル議会ではルセフ大統領の弾劾手続きが進められており、政治の不透明性がさらに高まっています。

12月16日の外国為替市場では、格下げ発表後に一時、1米ドル=3.96レアルと、前日比2.3%までレアル安が進みましたが、ニューヨーク時間17時現在、1米ドル=3.88レアル、前日比0.3%のレアル安となっています。

重要
イベント

12月17日 失業率（11月）
12月21日 経常収支（11月）
12月29日 基礎的財政収支（11月）

図1：ブラジルの外貨建て長期債務格付

(2015年12月16日時点)

格付会社	12月16日発表	12月16日発表以前
フィッチ	BB+ (見通しは「ネガティブ」)	BBB- (見通しは「ネガティブ」)
(参考) S&P	BB+ (見通しは「ネガティブ」)	(参考) ムーディーズ
		Baa3 (格下げ方向で見直し)

図2：為替レートの推移

期間：2014年12月31日～2015年12月16日、日次

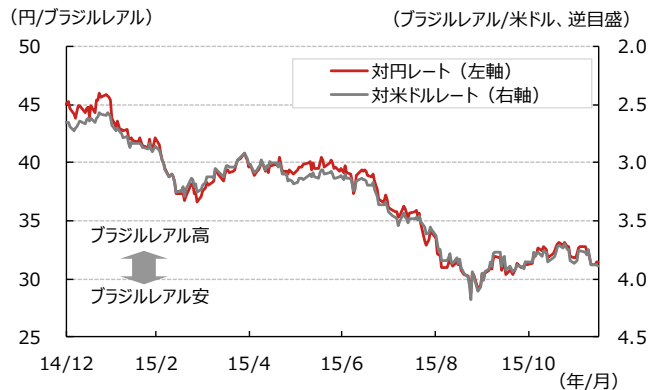
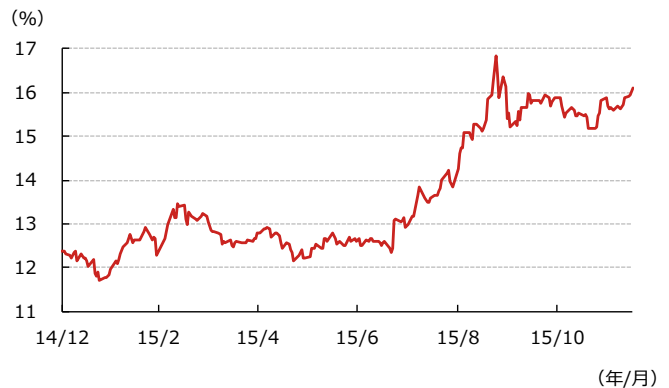


図3：10年国債利回り（現地通貨建て）の推移

期間：2014年12月31日～2015年12月16日、日次



(注) Bloombergジェネリック10年国債利回りを使用

(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成